

Collection Exhibition
Wasaku Kobayashi Collection
Landscape Paintings Rich with Natural Beauty



小林和作《春の山》1967年 油彩・両尺



小林和作《春の山》1967年 木・漆・磨漆



小林和作《春の山》1967年 磨漆

高田英雄《春の山》1968年 紙本墨色

小特集
小林和作
自然美の輝く風景画

2017(平成29)年

4月19日[水] - 7月2日[日]

開館時間: 9:00 - 17:00

※ 金曜日は20:00まで開館

※ 入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※ 特別展会期中・祝日・振替休日を除く

※ 5月22日は、展示替のため所蔵作品展は閉室

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円、高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※ ()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

【概要】

春の所蔵作品展 【小特集】小林和作 自然美の輝く風景画

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、来年は開館50周年の節目を迎えようとしています。

開館以来、多くの皆さまからご寄贈などのご協力を得て、現在のコレクション総数は約5,000点。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920-30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」を掲げ、とくに近代絵画と工芸作品が充実しています。

今年度の所蔵作品展は、コレクションを様々な角度から捉えた企画をとり揃え、4期に分けて開催いたします。春と秋には当館で複数の作品を所蔵する重要作家にスポットライトをあてる「小特集」コーナーを設けます。

今期は特別展「英国ウェールズ国立美術館展」に関連し、英国人陶芸家バーナード・リーチや抽象芸術グループのユニット・ワンの作品をご紹介します。小特集として、広島県尾道市ゆかりの洋画家・小林和作の作品が並びます。当館所蔵作品の数々と共にお楽しみください。

何度でも見たい、と言っていただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。残る夏、秋、冬の所蔵作品展もどうぞお楽しみに。

【内容】

バーナード・リーチの仕事

今期、当館の工芸コレクションから、特別展「英国ウェールズ国立美術館展」に関連して、英国人陶芸家バーナード・リーチのコレクションをご覧ください。

父の赴任地であった香港で生まれたバーナード・リーチは、幼児期を日本で過ごし、10歳でイギリスに戻り美術学校で学びました。1909(明治42)年に再来日し、柳宗悦をはじめ白樺派の人々と交流。1912(明治45)年には 六代尾形乾山に入門し、陶を開始。1920(大正9)年には浜田庄司を伴って帰国し、イギリス、イングランド、コーンウォール州セント・アイヴスに日本風の登窯を築き、イギリス伝統のスリップウェアと、中国や朝鮮半島の陶磁に影響を受けつつ、制作を行いました。その後の来日を通じて民芸運動に深く触れた外国人のひとりで、英語の著作や英訳によって近代陶磁や民芸の思想を世界に普及させた功績も重要です。1966(昭和41)年には日本政府から勲二等瑞宝章、1973(同48)年にはイギリスで名誉勲位を受けます。

同時に、リーチと熱い絆で結ばれた浜田庄司、河井寛次郎のコレクションのうち、イギリス陶器に触発された作例もご紹介します。



バーナード・リーチ 《鉄絵山樹文大壺》
1950(昭和25)年頃、陶器

press release

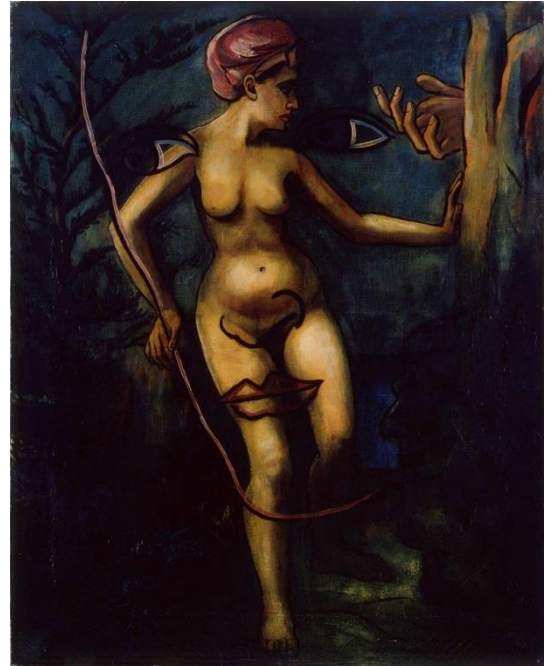
シュルレアリスムと抽象美術の時代

今期は、当館が所蔵する「1920～30年代(両大戦間期)の美術作品」から西洋美術の優品をご紹介します。

初めに皆様をお迎えするのは、サルバドール・ダリの《ヴィーナスの夢》。無意識の世界を表現したシュルレアリスムの代表的作家であるダリが、ニューヨーク万国博覧会で手がけたパビリオン「ヴィーナスの夢」内部に展示した作品です。

また、4月1日(土)～5月28日(日)開催の「英国 ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ」展にちなみ、イギリス出身の作家による彫刻・絵画をご紹介します。イギリスの前衛芸術家グループ「ユニット・ワン」に参加したヘンリー・ムーアやバーバラ・ヘップワース、ベン・ニコルソンらの抽象美術。加えて、「モビール」と呼ばれる動く彫刻作品の創始者、アレクサンダー・コールドーによる《ヴァーティカル・ホワイト・フレーム》。総合美術学校バウハウスが刊行した版画集や、マン・レイによる写真作品などを展観します。

シュルレアリスムや抽象美術の芸術家を中心とした、18名の作家たちによる競演をお楽しみください。



フランシス・ピカビア 《アンピトリテ》
1935年頃、油彩・画布

小特集 小林和作 小林和作

自然美の輝く風景画

このたびの展示では広島県にゆかりの深い小林千古、南薫造、巖光らの作品に加え、小林和作の作品を特集します。

小林和作は山口県の生まれですが、昭和9年から尾道市に居を移し、独立展を中心に活躍します。非常に面倒見が良く、海外留学を夢見る画家に旅費を提供したり、画廊の開設を援助したりと、地域文化の向上に幅広く貢献した彼は、広島文化を語る上で外すことのできない人物です。

彼の作品の多くは、独特の構図を大きなタッチで描き出す、まさに油絵といったスタイルの風景画です。その力強い画面からは、「美しさ」は作家が作り出すものではなく、自然の中に最初から在ってそれを見つるのが作家の「目」、その美しさを活かすのが「構図」と語る和作の意気込みが感じられます。そのため彼は、四季折々の写生に出掛けることを大切にしましたが、今回はそうした写生(素描)もあわせてご紹介します。油彩画と素描、それぞれの違いにもご注目ください。



小林和作《春の山》1967年 油彩・画布

press release

小林和作特集に寄せて

この展示室では、当館所蔵の日本画の中から、今回小特集として取り上げた洋画家「小林和作」にゆかりの作品、そして和作と同時代を生きた日本画家の作品をご紹介します。

美術コレクターとしての側面も持つ小林和作は、丸木スマ、村上華岳、富岡鉄斎などの作品を身近に置き、大切にしました。

当館には、和作旧蔵品として横山大観《井筒》、甲斐庄楠音《横櫓》、丸木スマの作品5点などが所蔵されています。これらの作品の何が和作の心を捉えたのでしょうか。想像しながら見てみることで、それぞれの作品についてはもちろん、和作自身の作品についても違った魅力が発見できるかもしれません。

また、和作と同時代、同じ京都市立絵画専門学校に学んだ土田麦僊、村上華岳ら国画創作協会のメンバーの作品や、京都に学んだ広島の画家らの作品も展示します。写実をもとに展開された京都画壇の画風を、それぞれ個性的に引き継いでいます。

最後に、広島出身で近代日本画に大きな足跡を残した児玉希望・奥田元宋・平山郁夫の作品も併せて、広島が生んだ日本画の世界をご堪能ください。



塩出英雄 《春山》 1969年 紙本彩色

赤の工芸

特別展「英国ウェールズ国立美術館展」の所蔵館のあるウェールズの旗は白と緑の地に赤い竜が描かれて



います。白と緑は、1485年から1603年までイングランド君主となったウェールズ系のテューダー一家に源をもち、ウェールズの国花・国章である西洋ネギ(リーキ、リーク)を象徴する色でもあります。赤い竜にまつわるアーサー王や古代の王たちや魔術師マーリンの伝説を通じて知られています。

そこで、今期は当館の工芸コレクションから、この竜にちなみ、赤い色の作品群をご覧ください。赤は、基本色のひとつで「明るい」に語源があると考えられています。赤の色は、無機顔料では辰砂(硫化水銀等)による朱、弁柄(酸化鉄)による丹、天然染料では植物から得られる茜、蘇芳、紅花、虫から得られるコチニール、ラック等があり、化学的に合成された顔料・染料も使われます。赤は、広島ではカープを象徴する色であり、古今東西の人々に様々な意味で愛されてきました。陶磁、染織、漆工等、素材の違いを超えて、無限の赤色を見つめてみませんか。



河井寛次郎 《赤盒子》 磁器



黒田辰秋 《朱沃地大名縞飾篋》
1982年 木・漆・螺鈿

press release

【関連イベント】

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時: 平日14:00~/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所: 2階 展示室

参加料: 無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※12/26～1/4は休み。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎 綾

総務課 広報担当 上西 真由美 一色 直香